

Natural for UNIX

コンフィグレーションユーティリティ

バージョン 8.4.1

2017年10月

このマニュアルは Natural バージョン 8.4.1 およびそれ以降のすべてのリリースに適用されます。

このマニュアルに記載される仕様は変更される可能性があります。変更は以降のリリースノートまたは新しいマニュアルに記述されます。

Copyright © 1992-2017 Software AG, Darmstadt, Germany and/or Software AG USA, Inc., Reston, VA, United States of America, and/or their licensors.

The name Software AG, webMethods and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA, Inc. and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

Software AG およびその子会社が所有する登録商標および特許の詳細については、<http://documentation.softwareag.com/legal/> を確認してください。

本ソフトウェアの一部にはサードパーティ製製品が含まれています。サードパーティの著作権表示およびライセンス規約については『License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third-Party Products』を参照してください。このドキュメントは製品ドキュメントセットの一部であり、<http://documentation.softwareag.com/legal/>上、またはライセンス製品のルートインストールディレクトリ内にあります。

本ソフトウェアの利用は、Software AGのライセンス規約に則って行われるものとします。ライセンス規約は製品ドキュメントセット内、<http://documentation.softwareag.com/legal/>上、またはライセンス製品のルートインストールディレクトリ内にあります。

ドキュメント IDは: NATUX-NNATCONFIG-841-20200614JA

目次

前書き	v
1	1
表記規則	2
オンライン情報	2
データ保護	3
2 コンフィグレーションユーティリティの起動と終了	5
コンフィグレーションユーティリティの起動	6
コンフィグレーションユーティリティの終了	7
コンフィグレーションユーティリティ起動中の関数の実行	7
3 コンフィグレーションユーティリティの使用	9
新しいパラメータファイルの作成	10
パラメータファイルを開く	10
パラメータの検索と変更	11
パラメータの検索	12
変更の保存	12
パラメータファイルの削除	13
パラメータファイルのエクスポート	14
パラメータファイルのインポート	14
4 コンフィグレーションファイルパラメータの概要	17
グローバルコンフィグレーションファイル	18
ローカルコンフィグレーションファイル	28
5 プロファイルパラメータの概要	33
データベース管理	34
Natural 実行コンフィグレーション	36
Natural 開発環境	52
製品コンフィグレーション	53
クライアント/サーバー	54
Tools	56
6 代替パラメータファイルを使用した Natural の起動	61

前書き

このドキュメントでは、グローバルおよびローカルコンフィグレーションファイルの変更（管理者専用）、およびパラメータファイルの作成または変更使用されるコンフィグレーションユーティリティについて説明します。

このドキュメントは次の項目で構成されています。

コンフィグレーションユーティリティの起動と終了	コンフィグレーションユーティリティを起動および終了する方法。
コンフィグレーションユーティリティの使用	パラメータの検索と変更、パラメータの検索、および変更の保存方法。パラメータファイルを開く方法、さらに作成、削除、エクスポートおよびインポートする方法。
コンフィグレーションファイルパラメータの概要	グローバルおよびローカルコンフィグレーションファイルで設定可能なパラメータに関する情報。このセクションには、 バッファプール割り当て の情報も含まれています。
プロファイルパラメータの概要	パラメータファイルで設定できるプロファイルパラメータに関する情報。
代替パラメータファイルを使用した Natural の起動	独自にカスタマイズしたパラメータファイルを使用して Natural を呼び出す方法。

以下の項目も参照してください。『オペレーション』ドキュメントおよび『パラメータリファレンス』の「[プロファイルパラメータの使用方法](#)」

 **注意:**

1. パラメータファイルは上位互換ですが、下位互換性はありません。コンフィグレーションユーティリティの上位バージョンでパラメータファイルを作成し、それよりも低いバージョンで読み取りを試行すると、エラーメッセージが表示されます。ファイルを読み取るには、ファイルを上位バージョンに**エクスポート**してから、このファイルをコンフィグレーションユーティリティの下位バージョンに**インポート**します。
2. パラメータファイルは、異なるプラットフォームでは互換性がありません。したがって、あるプラットフォームから別のプラットフォーム（Windows から UNIX または OpenVMS など）にコピーすることはできません。別のプラットフォームでパラメータファイルを使用する場合は、ファイルを**エクスポート**してから、ターゲットプラットフォームでこのファイルを**インポート**します。

1

■ 表記規則	2
■ オンライン情報	2
■ データ保護	3

表記規則

規則	説明
太字	画面上の要素を表します。
モノスペースフォント	<code>folder.subfolder:service</code> という規則を使用して webMethods Integration Server 上のサービスの保存場所を表します。
大文字	キーボードのキーを表します。同時に押す必要があるキーは、プラス記号 (+) で結んで表記されます。
斜体	独自の状況または環境に固有の値を指定する必要がある変数を表します。本文で最初に出現する新しい用語を表します。
モノスペースフォント	入力する必要があるテキストまたはシステムから表示されるメッセージを表します。Program code.
{ }	選択肢のセットを表します。ここから1つ選択する必要があります。中カッコの内側にある情報のみを入力します。{} 記号は入力しません。
	構文行で相互排他的な2つの選択肢を区切ります。いずれかの選択肢を入力します。 記号は入力しません。
[]	1つ以上のオプションを表します。大カッコの内側にある情報のみを入力します。[] 記号は入力しません。
...	同じ種類の情報を複数回入力できることを示します。情報だけを入力してください。実際のコードに繰り返し記号 (...) を入力しないでください。

オンライン情報

Software AG マニュアルの Web サイト

マニュアルは、Software AG マニュアルの Web サイト (<http://documentation.softwareag.com>) で入手できます。このサイトでは Empower クレデンシャルが必要です。Empower クレデンシャルがない場合は、TECHcommunity Web サイトを使用する必要があります。

Software AG Empower 製品のサポート Web サイト

もしまだ Empower のアカウントをお持ちでないのなら、こちらへ empower@softwareag.com 電子メールにてあなたのお名前、会社名、会社の電子メールアドレスをお書きの上、アカウントを請求してください。

いったんアカウントをお持ちになれば、Empower <https://empower.softwareag.com/> の eService セクションにてサポートインシデントをオンラインで開くことができます。

製品情報は、Software AG Empower 製品のサポート Web サイト (<https://empower.softwareag.com>) で入手できます。

機能および拡張機能に関するリクエストの送信、製品の可用性に関する情報の取得、製品のダウンロードを実行するには、Products に移動します。

修正に関する情報を取得し、早期警告、技術論文、Knowledge Base の記事を読むには、[Knowledge Center](#) に移動します。

もしご質問があれば、こちらのhttps://empower.softwareag.com/public_directory.asp グローバルサポート連絡一覧の、あなたの国の電話番号を選んで、わたくし共へご連絡ください。

Software AG TECHcommunity

マニュアルおよびその他の技術情報は、Software AG TECHcommunity Web サイト (<http://techcommunity.softwareag.com>) で入手できます。以下の操作を実行できます。

- TECHcommunity クレデンシアルを持っている場合は、製品マニュアルにアクセスできます。TECHcommunity クレデンシアルがない場合は、登録し、関心事の領域として [マニュアル] を指定する必要があります。
- 記事、コードサンプル、デモ、チュートリアルにアクセスする。
- Software AG の専門家によって承認されたオンライン掲示板フォーラムを使用して、質問したり、ベストプラクティスを話し合ったり、他の顧客が Software AG のテクノロジーをどのように使用しているかを学んだりすることが可能です。
- オープンスタンダードや Web テクノロジーを取り扱う外部 Web サイトにリンクできます。

データ保護

Software AG 製品は、EU 一般データ保護規則 (GDPR) を尊重した個人データの処理機能を提供します。該当する場合、適切な手順がそれぞれの管理ドキュメントに記載されています。

2 コンフィグレーションユーティリティの起動と終了

- コンフィグレーションユーティリティの起動 6
- コンフィグレーションユーティリティの終了 7
- コンフィグレーションユーティリティ起動中の関数の実行 7

コンフィグレーションユーティリティの起動

コンフィグレーションユーティリティの起動方法は、サイトにおけるシステムの構成方法によって異なります。ほとんどのインストールでは、以下のように起動します。

手順 2.1. コンフィグレーションユーティリティを起動するには

- UNIX システムのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
natparm
```

[**Natural Configuration Utility**] 画面が表示されます。

```
09/05/2007          Natural Configuration Utility          User: (Config)
                   V 6.3.4                                File: NATPARM

+-----+
|File      Edit      Configuration      Search      |
+-----+

Natural Parameter File Administration
```

 **注意:** ローカルコンフィグレーションファイルでコンフィグレーション管理者として定義されている場合、[**Configuration**] メニューは、[**Natural Configuration Utility**] 画面にのみ表示されます。

現在アクティブなパラメータファイルの名前が、画面の右上隅に表示されます。

(ユーザー ID ではなく) ["(Admin)"] または ["(Config)"] が画面の右上隅に表示されている場合、ローカルコンフィグレーションファイルで管理者として定義されています。

詳細については、ローカルコンフィグレーションファイルの「[管理者割り当て](#)」を参照してください。

コンフィグレーションユーティリティの終了

コンフィグレーションユーティリティを終了し、変更をまだ保存していない場合は、のウィンドウが表示され、今すぐ保存するかどうか尋ねられます。

手順 2.2. コンフィグレーションユーティリティを終了するには

- [File] メニューで、[Exit] を選択します。

コンフィグレーションユーティリティ起動中の関数の実行

コンフィグレーションユーティリティを起動するとき、複数の関数を自動的に実行できます。

以下の関数は、UNIX システム プロンプトの `natparm` コマンドの後に指定できます。

関数	説明
<code>exit</code>	コンフィグレーションユーティリティを終了します。
<code>import=parameter-file</code>	指定されたパラメータファイルをインポートします。
<code>export=parameter-file</code>	指定されたパラメータファイルをエクスポートします。
<code>parm=parameter-file</code>	指定したパラメータファイルを開きます。
<code>save</code>	パラメータファイルを保存します。
<code>save=new-parameter-file-name</code>	パラメータファイルを別の名前で保存します。

複数の機能を順番に指定できます（以下の例を参照）。

例

- コンフィグレーションユーティリティを起動し、すぐに編集できるように、指定したパラメータファイルを開きます。

```
natparm parm=parameter-file
```

- コンフィグレーションユーティリティを呼び出し、指定したパラメータファイルを開き、指定した名前で新しいファイルとして保存します。

```
natparm parm=parameter-file save=new-parameter-file-name
```

コンフィグレーションユーティリティの起動と終了

- コンフィグレーションユーティリティを起動し、指定されたパラメータファイルをロードおよびエクスポートして、コンフィグレーションユーティリティを終了します。

```
natparm parm=parameter-file export=parameter-file exit
```

- コンフィグレーションユーティリティを起動し、指定されたパラメータファイルをインポートして、インポートしたファイルの名前で保存します。

```
natparm import=parameter-file save
```

3 コンフィグレーションユーティリティの使用

- 新しいパラメータファイルの作成 10
- パラメータファイルを開く 10
- パラメータの検索と変更 11
- パラメータの検索 12
- 変更の保存 12
- パラメータファイルの削除 13
- パラメータファイルのエクスポート 14
- パラメータファイルのインポート 14

新しいパラメータファイルの作成

独自のパラメータファイルを作成し、必要に応じてカスタマイズできます。これらのパラメータファイルのいずれかを使用して、Naturalを呼び出すことができます。詳細については、「[代替パラメータファイルを使用したNaturalの起動](#)」を参照してください。

最初は、作成する各パラメータファイルに Natural のデフォルト設定が含まれています。

 **ヒント:** Natural で提供されるデフォルトのパラメータファイル NATPARM を修正する代わりに、独自のパラメータファイルを作成することをお勧めします。

管理者として定義されていない場合は、独自のパラメータファイルのみを変更できます。

手順 3.1. 新しいパラメータファイルを作成するには

- 1 [File] メニューで、[New] を選択します。

名前の付いていない新しいパラメータファイルが開きます（画面上部に名前が表示されません）。このファイルのパラメータはデフォルト値に設定されます。すべてのパラメータを必要に応じて設定できます。

- 2 ファイルを保存して、名前を割り当てます。



注意: また、既存のファイルを新しい名前でも保存することによって、新しいパラメータファイルを作成することもできます（管理者のみ）。

パラメータファイルを開く

別のパラメータファイルを修正する場合は、以下の説明に従ってファイルを開く必要があります。



注意: 管理者のみがすべてのパラメータファイルを変更できます。

手順 3.2. パラメータファイルを開くには

- 1 [File] メニューで、[Open] を選択します。

使用可能なすべてのパラメータファイルのリストが表示されます。

- 2 必要なパラメータファイルを選択し、ENTER を押します。



注意: リストで最初のエントリ、<OPEN>を選択すると、パラメータファイルの名前を入力できます。

開かれたパラメータファイルの名前が画面の右上隅に表示されます。これで、このパラメータファイルを変更できます。

パラメータの検索と変更

パラメータは、以下のようなさまざまな方法で検索できます。

- パラメータが見つかる [Edit] メニューのパラメータグループとカテゴリがわかっている場合は、以下のようにパラメータを検索できます。
- パラメータグループとカテゴリがわからない場合は、パラメータを検索できます。「[パラメータの検索](#)」を参照してください。

手順 3.3. 現在のパラメータファイルでパラメータを検索して変更するには

- 1 [Edit] メニューからパラメータグループ（例えば、**Natural Execution Configuration**）を選択します。
- 2 結果のウィンドウで、カテゴリ（**Buffer Sizes** など）を選択します。

パラメータが含まれるウィンドウが表示されます。Natural プロファイルパラメータの名前は、対応するオプションのラベルの後ろにある括弧内に表示されます。

- 3 パラメータを必要な値に設定します。詳細については、『[プロファイルパラメータの概要](#)』を参照してください。

 **注意:** 入力フィールドを選択すると、許容値（または PF キー）が画面下部に表示されます。いくつかのパラメータでは、PF キーを押して選択リストを呼び出すことができます。

- 4 「[変更の保存](#)」の説明に従って変更を保存します。

手順 3.4. コンフィグレーションファイルでパラメータを検索して変更するには

- 1 [Configuration] メニューで、[Global Configuration File] または [Local Configuration File] を選択します。
- 2 結果のウィンドウで、カテゴリ（**Printer Profiles** など）を選択します。

パラメータが含まれるウィンドウが表示されます。

- 3 パラメータを必要な値に設定します。詳細については、『[コンフィグレーションファイルパラメータの概要](#)』を参照してください。
- 4 「[変更の保存](#)」の説明に従って変更を保存します。

パラメータの検索

パラメータがどのカテゴリにあるかわからない場合は、パラメータを検索できます。

➤手順 3.5. パラメータを検索するには

- 1 [Search] メニューを選択し、ENTER キーを押します。
[Search Parameter] ウィンドウが表示されます。
- 2 ウィンドウでパラメータ名を指定し、ENTER を押します。



注意: [Search Parameter] ウィンドウを空のままにして ENTER キーを押すこともできます。この場合、別のウィンドウが表示され、そこから必要なパラメータを選択できます。カテゴリ（例えば、グローバルコンフィグレーションファイルに属する **Printer Profiles**）を選択することもできます。

パラメータを含むウィンドウが表示されます。

変更の保存

パラメータファイルとコンフィグレーションファイルは、異なる方法で保存されます。

管理者でない場合は、独自のパラメータファイルのみを保存できます。この場合、パラメータファイルを別の名前では保存することはできません。

➤手順 3.6. 現在のパラメータファイルの変更を保存するには

- 1 [File] メニューで、[Save] を選択します。
既存のパラメータファイルを上書きするかどうかを確認するウィンドウが表示されます。
- 2 ["YES"] を選択して、変更を確認します。

➤手順 3.7. グローバルコンフィグレーションファイルの変更を保存するには

- 1 [Configuration] メニューで、[Global Configuration File] を選択します。
- 2 結果のウィンドウで、[Save to Global Configuration File] を選択します。

➤手順 3.8. ローカルコンフィグレーションファイルの変更を保存するには

- 1 [Configuration] メニューで、[Local Configuration File] を選択します。

- 2 結果のウィンドウで、**[Save to Local Configuration File]** を選択します。

➤手順 3.9. 現在のパラメータファイルを別の名前で保存するには

- 1 **[File]** メニューで、**[Save As]** を選択します。

画面の最下部にメッセージが表示され、名前を入力するように求められます。

- 2 新しいパラメータファイルの名前を入力します。

パラメータファイルの削除

既存のパラメータファイルを削除できます。

削除されたパラメータファイルを使用して Natural を呼び出す場合は、対応するショートカットを調整する必要があります。詳細については、「[代替パラメータファイルを使用した Natural の起動](#)」を参照してください。

➤手順 3.10. パラメータファイルを削除するには

- 1 **[File]** メニューで、**[Delete]** を選択します。

次のウィンドウが表示されます。

```
+----- Delete Parameter File from... -----+
| File Name: *                               |
| Path.....:                               |
| $PARM_PATH                               |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
```

 **注意:** 上記のウィンドウのパスは変更できません。

- 2 **[File Name]** フィールドに削除するパラメータファイルの名前を入力し、ENTER を押します。

 **注意:** **[File Name]** フィールドをアスタリスク (*) のままにして ENTER キーを押すこともできます。この場合、ウィンドウが表示され、リストからパラメータファイルを選択できます。

パラメータファイルを削除してよいかどうかを確認するウィンドウが表示されます。

- 3 **["YES"]** をクリックして、削除を確認します。

パラメータファイルのエクスポート

パラメータファイルのエクスポートすると、現在のパラメータファイルの値を含むテキストファイルが生成されます。このようなテキストファイルは、Windows、UNIX、OpenVMS の各プラットフォームで使用できます。このテキストファイルを使用するには、[インポート](#)する必要があります。

手順 3.11. 現在のパラメータファイルのエクスポートするには

- 1 **[File]** メニューで、**[Export]** を選択します。

次のウィンドウが表示されます。

```
+----- Export Parameter File to ... -----+
| File Name: NATPARM                          |
| Path.....:                                  |
| $TMP_PATH                                    |
+-----+
```

現在のパラメータファイルの名前がファイル名として提示されます。拡張子を入力する必要はありません。拡張子 "LST" が自動的にファイルに追加されます。

- 2 指定は任意です。別のファイル名を指定します。別のディレクトリへのパスを指定することもできます。
- 3 ENTER キーを押します。

別のディレクトリを指定していない場合、ファイルは一時ファイル用に定義された Natural ディレクトリに保存されます。「[インストールの割り当て](#)」も参照してください。

パラメータファイルのインポート

以前に[エクスポート](#)されたパラメータファイルをインポートできます。インポートすると、エクスポート時に生成された "LST" 拡張子を持つテキストファイルからバイナリパラメータファイルが生成されます。

手順 3.12. パラメータファイルのインポートするには

- 1 **[File]** メニューで、**[Import]** を選択します。

次のウィンドウが表示されます。

```
+----- Import Parameter File from... -----+
| File Name: *                               |
| Path.....:                               |
| $TMP_PATH                                 |
+-----+

```

- 2 インポートするパラメータファイルの名前を **[FileName]** フィールドに入力します。必要な場合は、このファイルへのパスを入力します。ENTER キーを押します。拡張子を入力する必要はありません。



注意: **[FileName]** フィールドをアスタリスク (*) のままにして ENTER キーを押すこともできます。この場合、ウィンドウが表示され、リストからパラメータファイルを選択できます。

同じ名前のファイルがまだ存在しない場合、パラメータファイルがインポートされます。

同じ名前のファイルがすでに存在する場合、既存のファイルを上書きするかどうかを尋ねられます。

4 コンフィグレーションファイルパラメータの概要

- グローバルコンフィグレーションファイル 18
- ローカルコンフィグレーションファイル 28

コンフィグレーションファイルパラメータの概要

この章は、グローバルおよびローカルコンフィグレーションファイルで設定可能なパラメータについての情報を提供します。

File	Edit	Configuration	Search
		Global Configuration File	
		Local Configuration File	

コンフィグレーションファイルは管理者のみが変更できます。変更には、コンフィグレーションユーティリティのみを使用する必要があります。

新規の Natural インストールの後、デフォルトの管理者名は、SAG および になります。これらの管理者は、[**Configuration**] メニューを利用できます。管理者の SAG または DBA は、「[管理者割り当て](#)」セクションで定義されているように、ローカルコンフィグレーションファイルにさらに管理者を追加できます。

グローバルコンフィグレーションファイル

このパラメータグループには、以下のカテゴリが含まれています。

- データベース管理システム割り当て
- ディクショナリサーバー割り当て
- HTTP クライアントパラメータ設定
- Natural バージョンに依存しないオペレーティングシステムファイル
- NDV 環境の割り当て
- プリンタプロファイル
- システムファイル

データベース管理システム割り当て

データベース管理システム割り当てに適用されるパラメータは、以下の見出しでグループ化されています。

- DBMS 割り当て
- DBMS トレース
- SQL 割り当て

■ XML 割り当て

DBMS 割り当て

DDM でデータベースをマッピングするデータベース ID を定義するために使用されるテーブルが表示されます。

DBMS 割り当てがすでに定義されている場合は、テーブルに表示されます。

DBID

データベース ID。



注意: データベース ID が "0" に設定されている DDM を使用している場合、対応するデータベースタイプを指定した、データベース ID が同様に "0" に設定された個別のエントリも存在する必要があります。このエントリは、コンパイル時に、生成されたプログラム (GP) に対応するデータベースステートメントを生成するために使用されます。

Type

Natural がアクセスするすべてのデータベースのタイプは、グローバルコンフィグレーションファイルで定義する必要があるため、各データベース ID に以下のいずれかの値を指定します。

値	説明
ADA	Adabas データベースサーバー (これがデフォルトです)。
ADA2	Adabas データベースサーバーこのデータベースタイプは、Open Systems の Adabas バージョン 6 以降およびメインフレームの Adabas バージョン 8 以降で使用するために用意されています。このデータベースタイプでは、特に、Adabas LA フィールド、Adabas ラージオブジェクトフィールド、およびサイズが 64 KB を超える Natural ビューがサポートされています。 『プログラミングガイド』の「Adabas データベース管理インターフェイス ADA および ADA2」も参照してください。
SQL	Entire Access を使用してアクセスできるすべての SQL データベース。これは、さまざまな SQL データベースシステムへの Software AG の共通インターフェイスです。
XML	Tamino データベースサーバー。



重要: グローバルコンフィグレーションファイルのシステムファイルにすでに割り当てられている DBID にデータベースタイプを定義しないでください (「[システムファイル](#)」を参照)。そのようにすると、Natural の起動時に、システムファイル設定に不整合があることを示すエラーメッセージが表示され、データベース割り当ての読み取り時にエラーが発生します。

コンパイル時に、プロファイルパラメータ UDB はデータベースタイプの決定には使用されません。UDB は、実行時にデータベースタイプを決定するためにのみ使用されます。データベースタイプは、コンパイル時と実行時に同じであることが必要です。

例外：互換性の理由から、コンパイル時にデータベースタイプ ADA を、実行時に ADA2 を使用することができます。

パラメータ

次のタイプのデータベースのみに適用されます。

Type	説明
SQL	データベースタイプがSQLの場合は、作業するデータベースシステムへの接続を確立するために使用する文字列（DBMSパラメータ）を指定します。SQLタイプのデータベースシステムへのアクセス方法の詳細については、『データベース管理システムインターフェイス』の「 <i>Natural and Entire Access</i> 」を参照してください。
XML	データベースシステムがXML（Tamino）である場合は、このデータベースでアクセスするコレクションの名前を含む Tamino データベースの URL を入力します。Tamino データベースへのアクセス方法の詳細については、『データベース管理システムインターフェイス』の「 <i>Natural for Tamino</i> 」を参照してください。

DBMS トレース

Adabas Trace、**SQL Trace** および **XML Trace** の設定は、エラー診断のためのものです。これらは、Software AG サポートから要求された場合にのみ入力します。この場合、Software AG サポートが有効な値を提供します。

SQL 割り当て

SQL 割り当てのテーブルは、以下の見出しの下にグループ化されます。

■ SQL 日付／時刻の変換

このテーブルは、Entire Access の変換マスクを指定するために使用されます。

Natural には固有の時間形式が1つしかないため、この形式を SQL データベースアクセスのコンテキストでどのように解釈するかを決定する必要があります。選択肢は複数ありますが、ここで指定できるのは、SQL タイプの DBID ごとに1つの選択肢しかありません。

DBID

編集できません。[[DBMS Assignments](#)] テーブルで定義されている SQL タイプのデータベースのエントリ（上記参照）が自動的に入力されます。

マスク

この値は、Entire Access のコンフィグレーションを指定します。また、Natural データフォーマット A のフィールドに DATE、TIME、DATETIME の SQL 情報を取得するために使用される形式も指定します。マスクは、DATE、TIME または DATETIME 文字列表現の RDBMS 固有のコンフィグレーションと一致する必要があります。

日付

このマスク（通常は Mask 値のサブストリング）は、SQL DATE 列の更新または取得時に Natural データフォーマット D のフィールドが変換される文字列表現を指定します。

時刻

このマスク（通常は Mask 値のサブストリング）は、SQL TIME または DATETIME 列の更新または取得時に Natural データフォーマット T のフィールドが変換される文字列表現を指定します。

Remark

ここに注釈を入力できます。例えば、SQL DATE および TIME 文字列表現がデータベースサイトでどのように構成されているかをドキュメント化できます。

日付と時刻の両方で共通のデータタイプをサポートするデータベースシステムの場合、ハッシュ文字（#）をマスクで使用して DATETIME 文字列の関連しない部分をスキップできます。例えば、マスクの以下の設定は、日付と時刻の値に共通の DATETIME データ型をサポートする Microsoft SQL Server で適合する場合があります。

```
Mask = YYYYMMDD HH:II:SS
Date = YYYYMMDD
Time = #####HH:II:SS
```

■ SQL 認証

このテーブルは、SQL データベースへの自動ログインのユーザー ID とパスワードを指定するために使用します。

DBID

編集できません。[[DBMS Assignments](#)] テーブルで定義されている SQL タイプのデータベースのエントリ（上記参照）が自動的に入力されます。

自動ログイン

選択されると、このテーブル列の値が使用され、データベースに対して非対話式ログインが実行されます。さらに、環境変数 SQL_DATABASE_LOGIN、SQL_DATABASE_USER、SQL_DATABASE_PASSWORD、SQL_OS_USER および SQL_OS_PASSWORD の評価は行われません。

Type

この DBID に対して実行する認証の種類を定義するには、以下のいずれかの値を指定します。

値	説明
DB	データベース認証。
OS	オペレーティングシステム認証。
DB_OS	データベース認証とオペレーティングシステム認証の両方。

使用できる認証の種類は、データベースシステムによって異なることに注意してください。さらに、Entire Access でのオペレーティングシステム認証には制限があります。詳細については、Entire Access のドキュメントを参照してください。

DB ユーザー

データベース認証のユーザー ID。

DB パスワード

データベース認証のパスワード。

OS ユーザー

オペレーティングシステム認証用のユーザー ID。

OS パスワード

オペレーティングシステム認証用のパスワード。

XML 割り当て

Tamino データベースへの自動ログイン用のユーザー ID とパスワードを指定するテーブルが表示されます。

DBID

編集できません。[[DBMS Assignments](#)] テーブルで定義されている XML タイプのデータベースのエントリ（上記参照）が自動的に入力されます。

自動ログイン

選択されると、このテーブル列の値が使用され、データベースに対して非対話式ログインが実行されます。さらに、環境変数 XML_DB_USER、XML_DB_PASSWORD、XML_HTTP_USER および XML_HTTP_PASSWORD の評価は行われません。

DB ユーザー

Tamino データベース認証のユーザー ID。

DB パスワード

Tamino データベース認証のパスワード。

HTTP ユーザー

Web サーバー認証のユーザー ID。

HTTP パスワード

Web サーバー認証のパスワード。

ディクショナリサーバー割り当て

ディクショナリサーバーを使用すると、メインフレームまたは UNIX ホストで Predict にアクセスできるようになった時点で、Predict に保持されているフリールールや自動ルールにアクセスできます。



注意: ディクショナリサーバー（Predict サーバーとも呼ばれます）には、Predict がインストールされているのと同じ環境で実行されている任意の Natural RPC サーバーを指定できます。

いわゆるディクショナリサーバー（フリールールサーバーおよび自動ルールサーバー）に1つの共通論理サーバー名を割り当てることができます。複数の論理サーバー名を定義でき、それぞれの名前は、フリールールサーバーと自動ルールサーバーの異なるペアを表します。割り当てるサーバーは、別のノードに配置できます。

グローバルコンフィグレーションファイルでは、パラメータファイルで選択できるすべてのディクショナリサーバーを定義します。次に、使用する論理サーバーの名前をパラメータファイルで定義する必要があります。『プロファイルパラメータの概要』の「[リモートディクショナリアクセス](#)」を参照してください。

次の情報を指定できます。

Name

論理ディクショナリサーバーの名前を指定します。

フリールール

Predictフリールールへのリモートアクセスに使用するサーバーのサーバー名とノード名を指定します。

自動ルール

Predict自動ルールへのリモートアクセスに使用するサーバーのサーバー名とノード名を指定します。

HTTP クライアントパラメータ設定

HTTP サーバーの名前とポート番号を定義するには、以下のパラメータを使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
HTTP proxy address to use	PROX
HTTP proxy port number	PROXPORT
Do not use proxy for addresses	NOPROX
HTTPS proxy address to use	SSLPRX
HTTPS proxy port number	SSLPRXPT
Do not use SSL proxy for addresses	NOSSLPRX

Natural バージョンに依存しないオペレーティングシステムファイル

インストールされているすべてのNaturalバージョンに共通のディレクトリを指定できます。このディレクトリには、これらすべてのNaturalバージョンで使用されるオペレーティングシステム固有のワークファイルと一時ファイルが含まれます。これらのファイルは同期化のために必要であり、Natural 管理者は削除または変更してはなりません。

 **注意:** システムディレクトリを一時ファイルに使用する場合は、自動手順によって定期的にコンテンツが削除されないようにします。

NDV 環境の割り当て

この機能を選択すると、現在定義されているポートがウィンドウに表示されます。ポート番号を編集すると（ポート番号の横に "E" を入力し、ENTER キーを押します）、環境の割り当てが表示されます。ウィンドウの上部に表示される <CREATE> を選択して、その他のポートに環境の割り当てを追加することもできます。

任意の Natural 開発サーバー（NDV）にユーザー固有の環境を割り当てることができます。これを行うには、[Environment] 列で次の構文を使用します。

```
VARIABLE=VALUE[;VARIABLE=VALUE]...
```

例：

```
+----- Environment settings for NDV port <1234> -----+
| C User      Environment                                     |
|  USER1     MYWRKFILE=/natural/prog/user1;NDVSESSION=naturalins |
|  USER2     MYWRKFILE=/natural/prog/user2;NDVSESSION=naturaltr;NAT_TRACE=1 |
|  USER3     MYWRKFILE=/natural/prog/user3;NDVSESSION=naturalsql |
|                                                     |
```

上記の例では、ポート 1234 で起動されたサーバーの 3 つのユーザー環境が定義されています。環境変数 MYWRKFILE は、Natural ワークファイルのパスを定義します。この環境変数をパラメータファイルの「[Work Files](#)」セクションで使用して、定義されたユーザーに応じてワークファイルの場所を定義できます。

変数 NDVSESSION は、サーバーへのマッピングが行われるときにロードされる Natural イメージを指定します。これは、Natural 開発サーバーによってのみ認識されます。

例えば、Natural スタジオが、ポート 1234 とユーザー ID USER2 の Natural 開発サーバーにマッピングされている場合を考えます。サーバーは naturaltr を Natural セッションとしてロードし、開始されたアプリケーションの Adabas 呼び出しがトレースされます。MYWRKFILE で定義されたワークファイルは、場所 /natural/prog/user2 に書き込まれます。

UNIX の下にある Natural 開発サーバーを構成する方法については、UNIX 用 Natural 開発サーバーのドキュメントを参照してください。

プリンタプロファイル

プリンタプロファイルは、追加のレポートの印刷、ハードコピー、およびバッチ出力の生成に使用されます。特定の Natural フィールド属性を認識し、プロファイルで定義された適切な制御シーケンス（以下を参照）を挿入します。

Natural フィールド属性をエスケープシーケンスに変換する機能により、適切なプロファイル名を使用して、さまざまな方法でプリンタを制御できます。また、Natural プログラムで単純な属性を使用して、特定のデバイスの印刷機能を使用できます。

定義した各プロファイルは、コンフィグレーションユーティリティを使用して静的に（「[デバイス/レポート割り当て](#)」を参照）、または Natural プログラム内で DEFINE PRINTER ステートメントを使用して動的に、Natural レポート番号に割り当てることができます。

プリンタプロファイルに適用されるパラメータは、以下のページに記載されています。

- [プリンタプロファイル](#)
- [NOM プリンタプロファイル](#)
- [TTY プリンタプロファイル](#)

プリンタプロファイル

次の情報を指定できます。

Name

プリンタプロファイルの名前。

メソッド

このプリンタプロファイルの出力方法を指定します。または、PF2 キーを押して、出力方法をリストから選択します。

メソッド	説明
NOM	オペレーティングシステムのスプールを使用することなく、Entire Output Management コンテナファイルをポイントします。詳細については、『Entire Output Management』ドキュメントを参照してください。このメソッドを使用するには、 [NOM Printer Profiles] ページで必要な情報をすべて指定する必要があります。
TTY	印刷データ（テキストファイル）は、「そのまま」スプーラに直接送信されます。プリンタコマンドシーケンスは、動的（プログラムデータとして）または静的（プリンタプロファイルを介して）ないずれかの方法で、明示的に指定する必要があります。そのため、アプリケーションはコマンドシーケンスを完全に制御できます。これは、プリンタドライバをバイパスする低レベルの出力方法です。このメソッドを使用するには、 [TTY Printer Profiles] ページで必要な情報をすべて指定する必要があります。

NOM プリンタプロファイル

次の情報を指定できます。

プロファイル名

新しいプリンタプロファイルの名前を指定します。または、PF2 キーを押して、定義されているプリンタプロファイルをリストから選択します。

Config ブロック

OPO (Open Print Option) コンフィグレーションブロックの名前。

メタファイル

OPO XML メタファイルのパスと名前。

詳細については、『Entire Output Management』ドキュメントを参照してください。

TTY プリンタプロファイル

次の情報を指定できます。

プロファイル名

新しいプリンタプロファイルの名前を指定します。または、PF2 キーを押して、定義されているプリンタプロファイルをリストから選択します。

外部文字セット

指定は任意です。プリンタの文字セットがシステム文字セットと異なる場合や、データを UTF-8 形式で出力して Unicode データを保持する場合などは、外部文字セットを定義する必要があります。

外部文字セットの名前を指定できます。名前が "UTF-8" の場合、データは UTF-8 形式に変換されます。それ以外の場合は、任意の名前を使用できますが、ファイル NATCONV.INI 内の文字変換テーブル定義で使用される名前と一致する必要があります。たとえば、内部文字セット名 (NATCONV.INI ファイルの先頭近くで定義されています) が "ISO8859_1" で、プリンタプロファイルで外部文字セットの名前として "FRED" を定義している場合、次の名前のセクションを NATCONV.INI ファイルで定義する必要があります。これを定義しない場合、文字変換は実行されません。

```
[ISO8859_1 -> FRED]
```

UTF-8 以外の場合は、データは最初にインメモリ形式 (UTF-16) からシステムコードページに変換されてから、NATCONV.INI ベースの変換が適用されます。

NATCONV.INI ファイルの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「NATCONV.INI での異なる文字セットのサポート」を参照してください。

トリガ/先頭コマンド/末尾コマンド

ジョブ、ページ、またはフィールドレベルでコマンドがトリガされるかどうかを指定できます。

オプション	説明
Trigger	トリガイベントは、指定したプリンタ制御シーケンスを適用するレベルを制御します。使用可能なトリガイベントの名前を以下に示します。 [Trigger] フィールドでトリガイベントの名前を指定して、関連する先頭および末尾の制御シーケンスを表示します。PF2 キーを押して、リストからトリガイベントを選択することもできます。
JOB	印刷ジョブ全体に制御シーケンスを適用する場合は、このトリガイベントを使用します。指定された制御シーケンスは、それぞれジョブヘッダーまたはジョブトレイラあるいはその両方を表します。
PAGE	各物理出力ページに制御シーケンスを適用する場合は、このトリガイベントを使用します。指定された制御シーケンスは、それぞれページヘッダまたはページトレイラあるいはその両方を表します。
FIELD	(AD、CD または PM 属性に関係なく) 各フィールドに制御シーケンスを適用する場合は、このトリガイベントを使用します。
AD および CD	これらのトリガイベントは、セッションパラメータ AD (属性定義) および CD (色定義) の特定の属性を表します。フィールドレベルでのみ制御シーケンスを適用する場合は、これらのトリガイベントを使用します。対応する属性を持つ Natural プログラム内のフィールドは、これらの制御シーケンスを有効にします。これらのセッションパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
PM=I	ページの印刷方向と反対の印刷方向の各フィールドに制御シーケンスを適用する場合は、このトリガイベントを使用します。詳細については、セッションパラメータ PM (印刷モード) および端末コマンド %V (印刷モードの制御) を参照してください。
Leading command	先頭の制御シーケンスは、トリガイベントの直前に挿入されます (たとえば、ジョブヘッダーの定義やフィールド表現の属性設定)。
Trailing command	末尾の制御シーケンスは、トリガイベントの直後に挿入されます (たとえば、ジョブのトレイラの定義や以前に設定した属性のリセット)。

各制御シーケンスでは、英数字または 16 進形式のいずれかで制御文字を指定できます。

 **注意:**

1. 空白文字は常に 16 進形式 (^20) で指定する必要があります。直接入力した場合、コンフィグレーションファイルのトークンを区切るブランクと混同される可能性があります。
2. エスケープ文字は、印刷できない文字であるため、常に 16 進形式 (^1b) で指定する必要があります。

例

この例は、英数字と 16 進数の両方の形式でプロポーショナル文字の間隔を設定する PCL コマンドを示しています。エスケープ文字 "^1b" は、常に 16 進形式で指定する必要があり、10 進値 27 に対応します。

英数字形式：

```
^1b(s1P
```

16 進形式：

```
^1b^28^73^31^50
```

システムファイル

既存の Natural システムファイル割り当てのリストが表示されます。

すべての考えられるシステムファイルのパス（つまり、考えられるすべての DBID/FNR の組み合わせ）は、グローバルコンフィグレーションファイルで定義されています。これらは、ディスク上のシステムファイルの物理的な場所を示す有効なパスである必要があります。

次の情報を指定できます。

DBID

データベース ID。

FNR

ファイル番号。

エイリアス名

この機能は、Natural for Windows によりモート開発環境（SPoD）で作業する場合に適用されます。

システムファイルのエイリアス名を指定すると、この名前が Natural スタジオのライブラリワークスペースに表示されます。

パス

システムファイルへのパス。

定義された各システムファイルの DBID/FNR の組み合わせをパラメータファイルで定義できます。『プロファイルパラメータの概要』の「[システムファイル](#)」を参照してください。

ローカルコンフィグレーションファイル

このパラメータグループには、以下のカテゴリが含まれています。

- [管理者割り当て](#)
- [バッファプール割り当て](#)

■ インストール割り当て

管理者割り当て

ユーザーをNatural管理者にするか、コンフィグレーション管理者にするかを指定できます。次の組み合わせを使用できます。

```
+----- Administrator Assignments -----+
| C User Name   Administrator              |
|              NATURAL CONFIGURATION      |
| NAT1         Y             Y             |
| NAT2         Y             N             |
| NAT3         N             Y             |
| NAT4         N             N             |
+-----+-----+-----+-----+-----+
```

- ユーザーが Natural 管理者とコンフィグレーション管理者の両方として定義されている場合 (Y/Y)、ユーザーはすべてのパラメータファイルだけでなく、グローバルコンフィグレーションファイルおよびローカルコンフィグレーションファイルも変更できます。このようなユーザーがコンフィグレーションユーティリティを起動すると、画面の右側の隅に "(Config)" が (ユーザー ID の代わりに) 表示されます。



注意: コンフィグレーション管理者として定義できるのは、Natural 管理者のみです。ただし、ユーザーがコンフィグレーション管理者 (N/Y) としてのみ定義されている場合は、上記の情報が適用されます。これは、ユーザーが、Natural 管理者とコンフィグレーション管理者の両方として定義されているかのように処理されます (Y/Y)。

- ユーザーが、Natural 管理者としてのみ定義されている場合 (Y/N)、ユーザーはすべてのパラメータファイルを変更できます。[**Configuration**] メニューは表示されません。そのため、コンフィグレーションファイルを変更することはできません。このようなユーザーがコンフィグレーションユーティリティを起動すると、画面の右側の隅に "(Admin)" が (ユーザー ID の代わりに) 表示されます。
- ユーザーが Natural 管理者としてもコンフィグレーション管理者 (N/A) としても定義されていない場合、ユーザーは自分のパラメータファイルのみを変更できます。このようなユーザーがコンフィグレーションユーティリティを起動すると、画面の右側の隅にユーザー ID が表示されます。

バッファプール割り当て

バッファプールの定義に使用されるテーブルが表示されます。『オペレーション』ドキュメントの「*Natural* バッファプール」も参照してください。

 **注意:** パラメータを変更した場合、バッファプールを再起動することを強くお勧めします。再起動しない場合、新しいセッションがバッファプールに接続できない可能性があります。

次の情報を指定できます。

BP Name

Natural バッファプールの名前。名前の最大長は 8 文字です。デフォルトのバッファプールの名前は NATBP です。『パラメータリファレンス』ドキュメントの BPID の説明も参照してください。

 **注意:** デフォルトのバッファプール NATBP は削除しないでください。削除すると、Natural が正常に機能しなくなる可能性があります。

BP サイズ

Natural ローカルバッファプールのサイズ。この設定は、指定したサイズのグローバル共有メモリセグメントを作成するために、Natural バッファプールの起動時に NATBPSRV サーバーによって使用されます。

可能な設定：1 ~ 1024 MB。

追加バッファプールのデフォルト設定：1。

最大ユーザー数

バッファプールへの同時アクセスが可能なユーザーの最大数。この数値は、起動時に共有メモリ内に保存されるいくつかの内部テーブルのサイズを決定します。

可能な設定：1~5000。

デフォルト設定：20。

ディレクトリエントリ

ディレクトリエントリの数。この値は、バッファプールの開始時に NATBPSRV サーバーによって使用されます。最大値に達した場合、この値は自動的に増加されます。

読み取り専用バッファプールの場合、バッファプールが開始されたときにプリロードリストに基づいてディレクトリエントリの数計算されるため、この値は無視できます。

可能な設定：10~999999。

デフォルト設定：10。

共有メモリキー

バッファプールが使用している IPC 機能用の共有メモリキー。このキーの値を指定するように UNIX 管理者に依頼してください。

 **重要:** 共有メモリキーは、UNIX システム全体で一意である必要があります。

セマフォキー

バッファプールが使用している IPC 機能用のセマフォキー。このキーの値を指定するように UNIX 管理者に依頼してください。

 **重要:** セマフォキーは、UNIX システム全体で一意である必要があります。

読み取り専用

"ON" に設定されている場合、これは読み取りアクセスのみを許可する特殊なバッファプールです。この場合、セマフォキーの値は無視されます。

詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「読み取り専用バッファプール」を参照してください。

代替 BP 名

読み取り専用バッファプールの場合、代替バッファプールの名前を定義できます。代替バッファプールは、読み取り専用バッファプールでもあることが必要です。

全般的な情報については、『オペレーション』ドキュメントの「代替のバッファプール」を参照してください。

インストール割り当て

次の項目を指定できます。

パラメータ (**PARM_PATH**) へのパス
Natural パラメータファイルの場所。

ユーザープロファイル (**PROFILE_PATH**) へのパス
Natural ユーザープロファイルの場所。

グローバルコンフィグレーションファイル (**CONFIG_NAME**)
グローバルコンフィグレーションファイルの名前と場所 (デフォルト名は NATCONF.CFG です)。

Natural エラーファイルディレクトリ (**ERROR_FILES**)
Natural エラーファイルの場所。

Natural I/O 変換テーブル (**NATCONV**)
内部文字セット ISO-8859-1 で使用される文字変換テーブルを含むファイルの名前。デフォルトでは、このファイルは NATCONV.INI という名前です。詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「NATCONV.INI での異なる文字セットのサポート」を参照してください。

Natural TMP ディレクトリ (TMP_PATH)

Natural の一時出力の場所。

バイナリロードパス (NATEXTLIB)

Natural を使用している、その他のソフトウェア AG 製品のバイナリライブラリの場所。

ターミナルデータベース (NATTCAP)

Natural でサポートされている各端末タイプの端末機能の説明が記載されているデータベースの名前。詳細については、『ユーティリティ』ドキュメントの「*Natural Termcap* (NATTERMCP) ユーティリティ」を参照してください。

テキストファイルパス (TXT_PATH)

エディタおよび Natural TermCap ユーティリティで使用されるメッセージ、選択肢、ヘルプテキストの場所。

ユーザー定義ライブラリ

ユーザー定義の Natural ライブラリの場所。

特定のパス ($\$NATDIR/<version>/lib/<mylib>$ など) を定義する代わりに、環境変数 ($\$NATUSER$ など) を定義して、この変数をスタンドアロンとして使用するか、パス ($/opt/softwareag/Natural/<version>/lib/\$NATUSER$ など) に埋め込むことができます。ランタイムに、このパスは現在有効な環境変数 ($<mylib>$ など) に埋め込むことができます。



注意: 複数のライブラリを指定する場合は、名前を `userlib1:userlib2:userlib3` のようにコロンで区切る必要があります。



注意: 。有効なパスを指定した後に TAB キーを押すと、パスが自動的に展開されます。

5 プロファイルパラメータの概要

■ データベース管理	34
■ Natural 実行コンフィグレーション	36
■ Natural 開発環境	52
■ 製品コンフィグレーション	53
■ クライアント／サーバー	54
■ Tools	56

この章は、NATPARM パラメータファイル（または代替パラメータファイル）で設定できるプロファイルパラメータに関する情報を提供します。

File	Edit	Configuration	Search
	Database Management...		
	Natural Execution Configuration...		
	Natural Development Environment...		
	Product Configuration...		
	Client/Server...		
	Tools...		

個々のパラメータは、それぞれの機能に応じてパラメータグループに分けられます。

このセクションでは、コンフィグレーションユーティリティで設定できるすべてのパラメータについて説明します。ただし、管理者でない場合は、これらのパラメータの一部が表示されません。一部のパラメータは、管理者として定義されているユーザーのみが表示および設定できます（ローカルコンフィグレーションファイルの「[管理者割り当て](#)」も参照）。

使用可能なすべてのプロファイルパラメータの詳細については、「[パラメータリファレンス](#)」を参照するか、。

データベース管理

このパラメータグループには、以下のカテゴリが含まれています。

- [一般パラメータ](#)
- [Adabas 固有](#)
- [管理者 DBMS 割り当て](#)
- [ユーザー DBMS 割り当て](#)

以下の項目も参照してください。グローバルコンフィグレーションファイル内の「[データベース管理システム割り当て](#)」。

一般パラメータ

以下のプロファイルパラメータは、サポートされているデータベース管理システムに適用されません。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Database Updating	DBUPD
Execution of END/BACKOUT TRANSACTION	ET
ET at End of Program	ETEOP
ET upon Terminal I/O	ETIO

Adabas 固有

Natural を Adabas とともに使用する場合は、以下のプロファイルパラメータを確認し、必要な場合は、デフォルト値を調整して特定の要件を満たします。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Adabas Review Support	ADAPRM
Adabas User Identification	ETID
Multifetch	MFSET
Terminate when no ISN found with FIND statement	RCFIND
Terminate when no ISN found with GET statement	RCGET
Release ISNs	RI
Record Hold Processing	WH
Adabas OPEN/CLOSE Processing	OPRB

管理者 DBMS 割り当て

以下のプロファイルパラメータは、管理者固有のデータベース管理システム設定を割り当てるために使用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Administrator Logical Files	LFILE
Translation of File Number	TF

ユーザー DBMS 割り当て

以下のプロファイルパラメータは、ユーザー固有のデータベース管理システム設定を割り当てるために使用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
User Database ID	UDB
Database for Transaction Data	ETDB
User Logical Files	LFILE

Natural 実行コンフィグレーション

このパラメータグループには、以下のカテゴリが含まれています。

- バッチモード
- バッファサイズ
- 文字割り当て
- コマンドの実行
- 日付表示
- デバイス／レポート割り当て
- エラー処理
- フィールドの外観
- 制限
- プログラムのロードおよび削除
- 地域設定
- レポートパラメータ
- Steplibs
- システムファイル
- システム変数

- ワークファイル

バッチモード

Naturalのバッチモード動作に影響するプロファイルパラメータは、以下のページに含まれています。

- チャンネル
- 表示
- フレーム文字

『オペレーション』ドキュメントの「バッチモードでのNatural」も参照してください。

チャンネル

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Input data file name	CMOBJIN
Input data code page	CPOBJIN
Input commands file name	CMSYNIN
Input commands code page	CPSYNIN
Output file name	CMPRINT
Output code page	CPPRINT
Natural log	NATLOG
Enable error processing	CC

表示

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Similar output	BMSIM
Display input data	ECHO
Display session-end message	ENDMSG
Display trailing blanks	BMBLANK
Display control characters	BMCONTROL
Display process time	BMTIME
Display window title	BMTITLE
Display Natural version	BMVERSION

フレーム文字

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Frame characters	BMFRAME

バッファサイズ

Naturalでは、いくつかのバッファエリアを使用してプログラムおよびデータを保存します。場合によっては、バッファ効率を最大限に得るためにこれらのエリアのサイズを調整する必要があります。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Storage for sort program	SORTSIZE
Source area size	SSIZE
Work area size	USIZE
SAG editor buffer pool size	EDTBPSIZE
SAG editor logical files	EDTLFILES

ローカルコンフィグレーションファイルの「[バッファプール割り当て](#)」を参照してください。

文字割り当て

次のプロファイルパラメータを使用して、デフォルトの文字割り当てを変更できます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Terminal command character	CF
Clear key character	CLEAR
Decimal character	DC
Filler character	FC
Help character	HI
Input assign character	IA
Input delimiter character	ID
Thousands separator character	THSEPCH

デフォルト文字を置き換える文字を定義すると、この文字をデータとして使用することはできません。

コマンドの実行

以下のプロファイルパラメータは、コマンドの実行を制御するために使用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Enable command mode	CM
Enable terminal command %% and %	ESCAPE
Disable Natural commands	NC
Dynamic recataloging	RECAT

日付表示

以下のプロファイルパラメータは、日付の表現を制御するために使用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Date format in output	DFOUT
Date format in STACK	DFSTACK
Date format in report titles	DFTITLE
Date format	DTFORM
Maximum year	MAXYEAR
Year sliding window	YSLW

デバイス／レポート割り当て

これらのパラメータを使用して、画面とプリンタのコンフィグレーション、およびレポート割り当てを変更します。

バッチモードで追加レポートに使用される「CMPRTnn」プロファイルパラメータも参照してください。

デバイス割り当て

DEFINE PRINTERステートメントで使用される、構成可能な論理デバイスのスクロール可能なリスト（VIDEOおよび論理プリンタLPT1～LPT31）には、デバイス割り当てが表示されます。次の情報を変更できます。

クローズモード

論理プリンタごとに異なるクローズモードを選択できます。設定可能値を以下に示します。

クローズモード	説明
Auto	プリンタは、プログラムの終了時、または呼び出されたメソッドの実行終了時に自動的に閉じられます。これはデフォルト設定です。
User	プリンタの終了は、ユーザーによって制御されます。次のいずれかの条件が当てはまる場合、プリンタは閉じます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ CLOSE PRINTER ステートメントが実行され、 ■ DEFINE PRINTER ステートメントが実行され、 ■ セッションが終了したとき。



注意:

1. デバイス TRANSFER を使用する代わりに、論理プリンタデバイス（LPT1～LPT31のいずれか）を使用することをお勧めします。ここで、物理出力デバイスのデバイス出力先は、値 "E" に設定されています（データを Entire Connection に送信します）。『*Natural Connection*』ドキュメントの「プリンタの定義」も参照してください。
2. デバイス TRANSFER がレポート割り当てで使用される場合、このデバイスのクローズモードは以下のように決定されます。デバイス TRANSFER が割り当てられたレポート番号は、デバイス番号として使用されます（たとえば、レポート番号 2 の場合はデバイス LPT2 が使用されます）。このデバイスに定義されているクローズモードは、デバイス TRANSFER のクローズモード設定としても使用されます。

次のプログラム例では、ユーザー制御によるプリンタの終了について説明します。クローズモードは最初にパラメータファイルで設定する必要があることに注意してください。

```

DEFINE DATA
  LOCAL
  1 #OUT (A8)
END-DEFINE
*
#OUT := *PROGRAM
*
* Write to report with close mode "user"
WRITE (1) 'OUTPUT PROGRAM: ' #OUT
*
* Write to report with close mode "auto"
WRITE (2) 'OUTPUT PROGRAM: ' #OUT
    
```

```
*
* Close printer 1
* Printer 1 is user-controlled
CLOSE PRINTER (1)
*
END
```

Line Size

LS パラメータの説明を参照してください。

Page Size

PS パラメータの説明を参照してください。

最大ページ数

MP パラメータの説明を参照してください。

物理出力デバイス

印刷データを受け取るプログラム、スクリプト（引数を含む）、またはファイルのパスまたは名前あるいはその両方。プログラムとスクリプトは、stdin から受信した印刷データを読み取ることができます。

たとえば、以下のように、すべてのオプションでプリンタスプーラの標準印刷コマンドを指定できます。

■ UNIX システム V の場合：

```
lp options
```

■ BSD-UNIX の場合：

```
lpr options
```

行サイズ、ページサイズ、および最大ページ番号は、ハードウェアプリンタの割り当てと一致している必要があります。

デバイスの送信先

Natural が **[Physical Output Device]** フィールド内の情報をどのように解釈するかを決定します。

オプション	説明
F	"F" が指定されている場合は、ファイル仕様と見なされます。
D	"D" が指定されている場合は、コマンドまたはスクリプトと見なされます。
E	"E" が指定されている場合、この論理プリンタに書き込まれたすべてのデータが Entire Connection 端末に送信されます。つまり、通常画面に表示される出力データは NCD ファイルに書き込まれます。『Natural Connection』ドキュメントの「プリンタの定義」も参照してください。

 **注意:** [Device Destination] フィールドが "F" に設定されている場合、以下が [Physical Output Device] フィールドに適用されます。ワークファイルと同様に、環境変数を使用してファイル名を定義できます。入力されたファイル名の先頭の直前に 2 つの右向き山カッコ文字 (>>) を接頭辞として付けた場合を除き、指定された場所にある同じ名前の既存のファイルは通常上書きされます。

レポート割り当て

論理デバイス名に Natural レポート番号 (レポート 1 ~ レポート 31) を割り当てることができるスクロール可能なリストには、レポートの割り当てが表示されます。次の情報を変更できます。

デフォルトレポート番号の上書き

プロファイルパラメータ MAINPR の説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。

デバイス

レポート番号ごとに、別の出力メディアを選択できます。設定可能な値を以下に示します (PF2 キーを押してもこれらの値のうちいずれかを選択できます) :

値	説明
LPT1 ~ LPT31	レポートデータを対応する物理デバイスに出力します (「デバイス割り当て」の [Physical Output Device] フィールドを参照)。
SOURCE	レポートデータをソースエリアに出力します。後で、ユーザーは、例えば、EDIT コマンドを発行してエディタで出力データを開き、それに応じて保存できます。
DUMMY	レポートデータは破棄されます。
INFOLINE	レポートデータが情報行に送信されます。端末コマンド %X の説明も参照してください。
NOM	オペレーティングシステムのスプールを使用することなく、Entire Output Management コンテナファイルをポイントします。詳細については、『Entire Output Management』ドキュメントを参照してください。

レポート 0 は常に暗黙的に VIDEO に割り当てられます (つまり、出力は画面に表示されます)。VIDEO に他のレポート番号を割り当ててすることはできません。

プロファイル

論理デバイスの名前に加えて、グローバルコンフィグレーションファイルの **Printer Profiles** ノードで定義されたプリンタプロファイルを割り当てることができます。定義されているすべてのプリンタプロファイルは、F2 を押して選択できます。これらのプロファイルをいずれも使用しない場合は、空白のエントリを選択します。

エラー処理

以下のプロファイルパラメータは、Naturalの範囲内でエラー処理を制御するために使用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Error processing for PA/PF keys	IKEY
Display system error messages in full	MSGSF
Automatic REINPUT	REINP
Sound terminal alarm	SA
Sound bell on syntax error	SNAT
Zero division	ZD
Suppress message number prefix NAT	NOAPPLERR
Allow runtime interrupt	RTINT

フィールドの外観

以下のプロファイルパラメータは、I/O 処理に影響を与えます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Control variable modified at input	CVMIN
Filler chars protected	FCDP
Enable lowercase	LC
Numeric fields entry	NENTRY
Overwriting protected	OPF
Zero printing	ZP
Print mode	PM

制限

次のプロファイルパラメータは、単一のプログラムが内部リソースを過剰に消費するのを防ぐために使用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Error on loop limit	LE
Processing loop limit	LT
Maximum number of DBMS calls	MADIO
Maximum number of program calls	MAXCL
Size of page data set	PD
System time delay	SD

プログラムのロードおよび削除

以下のプロファイルパラメータは、プログラムのダイナミックなロードおよび削除を制御するために使用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Dynamic loading of non-Natural programs	CDYNAM
Allow dynamic parameter	DYNPARM
Release GDA in utility mode	FREEGDA
Session termination on initialization error	ITERM
Read only access to system files	ROSY
Buffer pool search first	BPSFI
Error transaction program name	ETA
Program command line parameter	PRGPAR
Program to receive control after Natural termination	PROGRAM
Natural stack command line	STACK

地域設定

以下のプロファイルパラメータは、Naturalの国または地域固有の設定を制御するために使用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Day differential	DD
Time differential	TD
User language	ULANG
Use UTF-8 format for sources	SUTF8
Retain source format	SRETAIN
Code page conversion error	CPCVERR
Default code page	CP
Substitution character	SUBCHAR
Display order of output data	DO

レポートパラメータ

以下のプロファイルパラメータは、Naturalレポートのさまざまな属性を制御するために使用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Page eject	EJ
Numeric edit mask free mode	EMFM
Line size	LS
Page size	PS
Spacing factor	SF
Default input terminal mode	IM

Steplibs

以下のパラメータを使用して、STEPLIB を管理します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
*STEPLIB	STEPLIB
Steplib Extension	追加の Steplib の定義方法と、このテーブル内の行の使用方法については、下の「 追加の Steplib 割り当て 」を参照してください。

追加の Steplib 割り当て

現在のライブラリ内では見つからないオブジェクトを検索する最大8個のライブラリを定義できます。これらの追加のステップは、テーブルで定義します。STEPLIB 番号が最初の列に表示されます。次の情報を指定できます。

Name

既存のライブラリの名前。

DBID

ライブラリが配置されているファイルシステムのデータベース ID。

FNR

ライブラリが配置されているファイルシステムのファイル番号。



注意: 複数の STEPLIB を処理するために、以下のアプリケーションプログラミングインターフェイスが利用できます。USR3025N (Natural Security がインストールされていない場合) および USR4025N (Natural Security がインストールされている場合)。

システムファイル

以下のプロファイルパラメータは、Natural システムファイルを指定するために使用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
FNAT (システムプログラム用の Natural システムファイル)	FNAT
FUSER (ユーザープログラム用の Natural システムファイル)	FUSER
FSEC (Natural Security システムファイル)	FSEC
FDIC (Predict システムファイル)	FDIC
FDDM (DDM 用の Natural システムファイル)	FDDM

各システムファイルの物理的な場所は、グローバルコンフィグレーションファイルで定義されます。グローバルコンフィグレーションファイルの「[システムファイル](#)」を参照してください。

システム変数

以下のプロファイルパラメータを使用して、Natural セッションの開始時の Natural システム変数を調整します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Automatic logon	AUTO
Startup library	INIT-LIB
Startup program	STARTUP
User ID	USER

『システム変数』ドキュメントも参照してください。

 **注意:** コマンドラインパラメータ PARM を使用して、セッション起動時に特定の Natural パラメータファイルを指定できます。このパラメータはダイナミックにのみ指定できるため、コンフィグレーションユーティリティ内で変更または表示することはできません。

ワークファイル

以下のプロファイルパラメータを使用して、ワークファイル設定を指定できます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Entire Connection protocol mode	ECPMOD
Entire Connection local NCF protocol	NCFVERS
PC support	PC
Max. work file number	WORK
Alternate sort work file names	TMPSORTUNIQ
Work file open on first access	WFOPFA
Work files	ワークファイルの定義方法およびこのテーブルの行の使用方法については、下の「 ワークファイルの割り当て 」を参照してください。

バッチモードに適用される「CMWRKnn」プロファイルパラメータも参照してください。

『オペレーション』ドキュメントの「ワークファイル」も参照してください。

ワークファイルの割り当て

ワークファイルの割り当ては、1～32の番号を持つワークファイルが含まれるスクロール可能なリストに示されます。ワークファイル番号が最初の列に表示されます。ワークファイル名がすでにワークファイル番号に定義されている場合、この情報（パスと名前）が **[Name]** 列に表示されます。

次の情報を変更できます。

Type

ワークファイル番号ごとに、もう1つのワークファイルタイプを選択できます。設定可能な値を以下に示します（PF2 キーを押してもこれらの値のうちいずれかを選択できます）：

ワークファイルタイプ	説明
Default	上位互換性について拡張子からファイルタイプを特定します。
Transfer	Entire Connection と PC の間で両方向でデータを転送するために使用します。このワークファイルタイプは、UNIX または OpenVMS 上の Natural セッションと PC 上の Entire Connection 末端の間のデータ接続を示します。ワークファイルデータは、PC 上で Entire Connection フォーマットで書き込まれます。
SAG	バイナリフォーマット。
ASCII	ラインフィード (LF) によって終了されたレコードを含むテキストファイル。 PF4 キーを押すと、このワークファイルタイプのプロパティを変更できます。表示されるダイアログボックスで、次の情報を指定できます。 Code page ワークファイルの書き込みに使用されるコードページを指定できます (ICU コードページ名。IANA 名を推奨)。ここでコードページが定義されていない場合、CP で定義されたデフォルトのコードページが使用されます。
ASCII compressed	すべての末尾ブランクが削除される ASCII フォーマット。 PF4 キーを押すと、このワークファイルタイプのプロパティを変更できます。表示されるダイアログボックスで、次の情報を指定できます。 Code page ワークファイルの書き込みに使用されるコードページを指定できます (ICU コードページ名。IANA 名を推奨)。ここでコードページが定義されていない場合、CP で定義されたデフォルトのコードページが使用されます。
Entire Connection	このワークファイルタイプでは、ローカルディスクにある Entire Connection フォーマットのワークファイルに対して直接読み取りおよび書き込みを行うことができます (例えば、ステートメント READ WORK FILE と WRITE WORK FILE を使用)。 注意: PC へは転送できません。Entire Connection 末端はこの処理では使用されません。

ワークファイルタイプ	説明
Unformatted	<p>フォーマットがまったく行われていないファイル。フォーマット情報が書き込まれていません（フィールドまたはレコードのいずれにも）。</p> <p>PF4キーを押すと、このワークファイルタイプのプロパティを変更できます。表示されるダイアログボックスで、次の情報を指定できます。</p> <p>Code page ワークファイルの書き込みに使用されるコードページを指定できます（ICU コードページ名。IANA 名を推奨）。ここでコードページが定義されていない場合、CP で定義されたデフォルトのコードページが使用されます。</p>
Portable	<p>正確にダイナミック変数を操作でき、転送することも可能なファイル（例：リトルエンディアンマシンとビッグエンディアンマシンの間）。</p>
CSV	<p>コンマ区切りの値。各レコードは、ファイル内の1つの行に書き込まれます。デフォルトでは、ヘッダーは書き込まれません。データフィールドを区切るために使用されるデフォルト文字はセミコロン (;) です。</p> <p>PF4キーを押すと、このワークファイルタイプのプロパティを変更できます。表示されるダイアログボックスで、次の情報を指定できます。</p> <p>Header ["ON"] に設定すると、Natural フィールド名を持つヘッダーがファイルに書き込まれます。</p> <p>セパレータ文字 別のセパレータ文字を選択できます。表示されていないセパレータ文字が必要な場合は、入力できます。</p> <p>Code page ワークファイルの書き込みに使用されるコードページを指定できます（ICU コードページ名。IANA 名を推奨）。ここでコードページが定義されていない場合、CP で定義されたデフォルトのコードページが使用されます。</p>

特定のワークファイルタイプの結果として生成されるワークファイルフォーマットの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「ワークファイルフォーマット」を参照してください。

クローズモード

ワークファイルごとに異なるクローズモードを選択できます。設定可能値を以下に示します。

クローズモード	説明
Auto	<p>これはデフォルト設定です。ワークファイルは、プログラムの終了時、またはメソッド呼び出し階層で最初に呼び出されたメソッドの実行が終了し、最初に呼び出されたメソッドが COM 経由で呼び出されたときに、自動的に閉じられます。</p> <p>最初に呼び出されたメソッドが（COM 経由ではなく）ローカルで呼び出された場合、ワークファイルは閉じられません。</p>

クローズモード	説明
	例：（COM 経由で呼び出された）メソッド A はメソッド B を呼び出し、メソッド B はメソッド C を呼び出します。メソッド A の実行が終了すると、すべてのワークファイルが閉じられます。
User	ワークファイルの終了は、ユーザーによって制御されます。次のいずれかの条件が当てはまる場合、ワークファイルは閉じます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ CLOSE WORK FILE ステートメントが実行され、 ■ DEFINE WORK FILE ステートメントが実行され、 ■ セッションが終了したとき。

次のプログラム例では、ユーザー制御によるワークファイルの終了について説明します。クローズモードは最初にパラメータファイルで設定する必要があることに注意してください。

```

DEFINE DATA
  LOCAL
  1 #OUT (A8)
END-DEFINE
*
#OUT := *PROGRAM
*
* Write to work file with close mode "user"
WRITE WORK 1 'OUTPUT PROGRAM: ' #OUT
*
* Write to work file with close mode "auto"
WRITE WORK 2 'OUTPUT PROGRAM: ' #OUT
*
* Close work file 1
* Work file 1 is user-controlled
CLOSE WORK FILE 1
*
END
    
```

Attributes

ワークファイルごとに異なる属性を定義できます。次のカテゴリのいずれかの属性を指定できます。

カテゴリ	指定可能な属性	デフォルト属性	説明
Append mode	NOAPPEND または APPEND	NOAPPEND	ワークファイル内の現在のデータを新しいデータで上書きするか、または現在のデータの最後に新しいデータを追加するかを決定します。
Keep/delete work file after close	KEEP または DELETE	KEEP	閉じた後にワークファイルを保持するか削除するかを決定します。

カテゴリ	指定可能な属性	デフォルト属性	説明
Write byte order mark (BOM)	BOM または NOBOM	NOBOM	<p>バイト順マークがワークファイルデータの前に書き込まれるかどうかを決定します。</p> <p>コードページデータを書き込むワークファイルタイプでのみ使用できます。ASCII、ASCII 圧縮、未フォーマット、および CSV。これらのワークファイルタイプでは、コードページ UTF-8 がワークファイルに定義されている場合にのみ BOM 属性を設定できます（ [Type] 列の説明を参照）。</p> <p>別のタイプのワークファイルが書き込まれる場合、または UTF-8 以外のコードページが定義されている場合は、ランタイムで属性 BOM の指定が無視されます。</p> <p>『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「Windows、UNIX、および OpenVMS プラットフォーム上のワークファイルと出力ファイル」も参照してください。</p>
Remove/keep carriage return	REMOVECR または KEEPCR	REMOVECR	<p>ASCII ワークファイルの読み取り時に改行文字を削除するか、または保持するかを決定します。</p> <p>以下のワークファイルタイプでのみ使用できます。ASCII および圧縮 ASCII。属性の 1 つが別のワークファイルタイプに設定されている場合、ランタイムに無視されます。</p> <p>注意: KEEPCR は慎重に使用してください。ASCII フォーマットは、英数字データにのみ推奨されます。バイナリデータは ASCII ワークファイルを使用して処理しないでください。KEEPCR を使用する場合、ワークファイルレコードに改行文字が含まれる可能性があります。</p> <p>KEEPCR の使用が理にかなっているのは、UNIX または OpenVMS で書き込まれた ASCII ワークファイルを読み取る場合のみです。Windows で書き込まれた ASCII ファイルに KEEPCR を使用するは無意味です。</p>

ワークファイルタイプ "Transfer" に属性を定義することはできません。

各属性には、固有の省略形を入力できます。デリミタ文字には、空白、カンマ (,)、またはセミコロン (;) のいずれかを使用できます。例："a, d" は、APPEND および DELETE を表します。

カテゴリごとに指定できる属性は 1 つだけです。任意の順序で指定できます。テーブルに属性が指定されていない場合は、デフォルト値が使用されます。

Name

ワークファイルの場所（パスと名前）を指定します。

『オペレーション』ドキュメントの「環境変数でのワークファイル名の定義」も参照してください。

Natural 開発環境

このパラメータグループには、以下のカテゴリが含まれています。

- コンパイラオプション
- エディタオプション
- 環境の割り当て

コンパイラオプション

以下のプロファイルパラメータは、Naturalコンパイラのオプションを設定するために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Compiler output	CO
Interpretation of database field short names	DBSHORT
Dump generation	DU
Length/format specification	FS
Keyword checking	KCHECK
Structured mode	SM
Syntax error control	SYNERR
Dynamic thousands separator	THSEP
Translate quotation marks	TQMARK
MASK compatible with MOVE EDITED	MASKCME
Maximum number of digits after decimal point	MAXPREC
Parameter checking for CALLNAT statement	PCHECK
Internal sign representation of format P	PSIGNF
Endian mode	ENDIAN
Generation of global format identifiers	GFID
Active cross reference	XREF

システムコマンド COMPOPT の説明も参照してください。

エディタオプション

Natural エディタオプションを設定するには、以下のプロファイルパラメータを使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Renumber line numbers in constants	RNCONST

環境の割り当て

Natural 環境変数を調整するには、以下のプロファイルパラメータを使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Other editor	EDITOR
Usage of editor ring buffer	EDTRB
Access to operating system from Natural	SHELL

製品コンフィグレーション

このパラメータグループには、以下のカテゴリが含まれています。

- [Entire System Server](#)
- [ファンクションキー](#)
- [Web I/O インターフェイス](#)

Entire System Server

次のプロファイルパラメータは、Software AG の Entire System Server と組み合わせて使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
ESX database	ESXDB

プロファイルパラメータの概要

ファンクションキー

次のプロファイルパラメータは、PA、PFおよびCLEARキーに値を割り当てるために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
CLR, PA1 to PA3, PF1 to PF24	KEY

Web I/O インターフェイス

次のプロファイルパラメータは、Natural Web I/O インターフェイスでの Unicode サポートに使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Web I/O Interface	WEBIO

クライアント／サーバー

このパラメータグループには、以下のカテゴリが含まれています。

- HTTP パラメータ
- リモートディクショナリアクセス
- リモートプロシージャコール

HTTP パラメータ

次のプロファイルパラメータは、HTTP サポートを提供するために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Timeout for REQUEST DOCUMENT	RQTOUT

リモートディクショナリアクセス

以下のプロファイルパラメータは、リモートディクショナリアクセスに使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Name of logical dictionary server	USEDIC 論理ディクショナリサーバーがグローバルコンフィグレーションファイルに定義されている場合は、ここで名前を指定できます。グローバルコンフィグレーションファイルの「 ディクショナリサーバー割り当て 」を参照してください。

リモートプロシージャコール

Natural リモートプロシージャコール (RPC) に適用されるプロファイルパラメータは、以下の見出しの下にグループ化されています。

- RPC (全般)
- RPC (クライアント)
- RPC (サーバー)

RPC (全般)

これらのプロファイルパラメータは、クライアントとサーバーの両方に適用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Request buffer size (KB)	MAXBUFF
Code page	CPRPC

RPC (クライアント)

これらのプロファイルパラメータは、クライアントにのみ適用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Automated remote execution	AUTORPC
Retry service on alternative server	TRYALT
Send-buffer compression	COMPR
Request timeout (sec)	TIMEOUT
Default server	DFS

プロファイルパラメータの概要

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Remote directory servers	RDS
Library for service directory	RPCSDIR

RPC (サーバー)

これらのプロファイルパラメータは、サーバーにのみ適用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Start session as RPC server	SERVER
Logon required for server request	LOGONRQ
Server name	SRVNAME
Server node	SRVNODE
Server user ID	SRVUSER
Server wait time (sec)	SRVWAIT
Number of reconnect attempts	SRVRTRY
Wait time between attempts	
Server termination event	SRVTERM
Server commit time	SRVCMIT
Transport protocol	TRANSP
RPC trace level	TRACE
Trace on error	

Tools

このパラメータグループには、以下のカテゴリが含まれています。

- [デバッグ](#)
- [プロファイラ](#)

- コードカバレッジ

デバッグ

Natural Debugger に影響を与えるこのプロファイルパラメータは、以下のカテゴリに含まれます。

- コンパイラオプション

コンパイラオプション

このプロファイルパラメータは、デバッグ情報の生成に使用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Generate debug information	GPGEN/DEBUGGER

プロファイラ

Natural Profiler に影響を与えるパラメータは、以下のカテゴリに含まれます。

- コンパイラオプション
 - General
 - イベント

コンパイラオプション

次のプロファイルパラメータは、Natural Profiler を有効にするために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
プロファイラ情報の生成	GPGEN/PROFILER

プロファイルパラメータの概要

General

以下のプロファイルパラメータは、Naturalセッションをプロファイルするために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
汎用 Natural プロファイルパラメータ	PROFILER

イベント

次のプロファイルパラメータは、Naturalセッションのどのイベントをプロファイルするかを指定します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Natural Profiler イベント選択パラメータ	PROFILER(EVENT subparameter)

コードカバレッジ

Naturalコードカバレッジに影響するプロファイルパラメータは、以下のカテゴリに配置されます。

- **コンパイラオプション**
- General

コンパイラオプション

次のプロファイルパラメータは、コードカバレッジを許可するために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
カバレッジ情報の生成	GPGEN/COVERAGE

General

次のプロファイルパラメータは、コードカバレッジ情報を生成する Natural セッションの部分を指定します。

オプション	このプロファイルパラメータの説明については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
汎用 Natural カバレッジパラメータ	COVERAGE

6 代替パラメータファイルを使用した Natural の起動

デフォルトでは、Natural is がパラメータファイル NATPARM で呼び出されます。独自にカスタマイズしたパラメータファイルを作成した場合は、このパラメータファイルを使用して Natural を呼び出すこともできます。

『オペレーション』ドキュメントの「パラメータ値のダイナミックな割り当て」も参照してください。

▶手順 6.1. 代替パラメータファイルを使用して Natural を起動するには

- UNIX システムのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
natural PARM=parameter-file
```

